

株式会社 SUP
代表取締役

平田 裕宣

20年にわたりハウスメーカーに勤務していた平田社長が、
保険業界という未経験の世界に足を踏み入れたのは45歳の時のことだった。
そして、50歳を過ぎての独立という大きな決断をした社長。
そんな社長は今「何歳になっても、夢を追うことはできます」と語る。
一歩を踏み出すのに、年齢は関係ない。
真っ直ぐ歩み続ける社長の姿は、夢を追い続ける人々を勇気づけるだろう。

**「年齢を理由に、夢を諦めなくても良い。
頑張る人々を応援し続けていきたいです」**



代表取締役
平田 裕宣

お客様の人生や思いに寄り添い 夢の実現をサポートする ライフトータルアシスタント

2024 年設立の『SUP』は、社会貢献と休息の具体的な方策をサポートするライフトータルアシスタントとして、保険、不動産、キャリア支援、キャンプ場運営など、多岐に亘るサービスを提供している。本日は、同社の平田社長のもとをタレントの野村将希氏が訪問。その半生から今後の展望まで、様々なお話を伺った。

INTERVIEW

——まずは、『SUP』さんの業容からお聞かせください。

不動産仲介やコンサルティング、不動産売買などの不動産業、保険代理店業、人材派遣・紹介、民泊やキャンプ場の運営・販売を行う旅館業を展開しております。ライフトータルアシスタントとして、不動産や保険など様々なご相談を自社にてワンストップでご対応させていただきます。

——平田社長は何故こうした事業を始めたのでしょうか。

私の経歴からお話しさせていただきますと、親の仕事の関係で転勤が多く、何度も引越しを経験していました。その度に住む家が変わりますので、自然と「今回はどんな家だろう」と思うようになります。住宅への興味が強くなっていったのです。それで、中学生のころには住宅に関わる仕事がしたいと思っていました。そして、学業修了後は大手住宅メーカーに入社して営業職に就いたのです。

——いざ入られてみて、いかがでしたか。

好きで入った業界ということもあり、純粋に楽しかったですね。忙しい日々で、朝早くから深夜まで働く毎日でしたが、その経験があったからこそ今では恐いも

立に踏み切った。そして、働いてくれている従業員や信頼してくださるお客様、支えてくれている家族のために奮闘してきた。そうした経験があるからこそ、夢を追い続ける人々や大切な人のために頑張る人々の気持ちを理解し、その背中を後押しできるのだろう。

▼人生をサポートするライフトータルアシスタント。それが、社長の目指す姿であり、同社の在り方だ。

夢を追う人々をサポートしたい

▼「What is your SUP? ～あなたの SUP はなんですか?～」——これは『SUP』のコンセプトだ。社名は、「～さあ始めよう (START UP)、挑み続けよう (STEP UP)、大切な人の笑顔のために (SMILE UP)～」から名付けられている。

▼このコンセプトや社名には、平田社長自身の経験からくる思いが込められている。自身が新たな事業に挑戦し、独

不動産業	保険代理店業	人材派遣・紹介	旅館業
不動産仲介やコンサル、売買を通じて、潜在ニーズを発掘し、正確な価値を提供。終活、相続、事業承継をサポートし、最適な活用プランを提案します。	社会保障インフラをわかりやすく解説し、生命保険や損害保険でリスクを分散。相続や事業承継対策に特化し、顧客のライフステージに合わせた最適なプランを提供。	キャリア支援、人材確保、育成、活用、紹介を行い、個人のキャリアアップをサポートし、企業と人材のマッチングを実現します。特に資格の適正活用をします。	相続した空き地・空き家を活用し、価値を最大化。民泊やキャンプ場などを運営・販売し、地域活性化に貢献します。SUPの顧客には独自の宿泊体験を提供。



のなどないくらいになりました (笑)。ただ、家のことは妻に任せきりだったので、申し訳ないと思いつつも、ずっと支えてくれて感謝ばかりです。

——お忙しいながら充実していたご様子で。その後はどうされて?

好きなこととはいえ、長年勤めていると徐々に努力をせずとも仕事が進められるようになってしまい、「惰性で続けて良いのだろうか」と思うようになったのです。当時 45 歳で、定年まであと 15 ～ 20 年だと考えると、このままこの仕事を続けていても自分自身の成長はないな、と。そんな中で、ある生命保険会社からヘッドハンティングの打診を頂いたのです。私自身、金融に関する知識は持っていて困ることはないだろうという考えもあって、そちらでお世話になることにしました。

—— 45 歳から新たな挑戦とは、思い切りましたね。

家族もありましたから、とにかく必死にやるしかないとの思いでしたね。お客

様を始めとして色々な方とお話をしてそこから学びを得て、次に繋げていくことを心掛けていました。そうして 4 年ほど経ったころには、お陰様で結果もついてくるようになったのです。そして、次はヘッドハンティングなどのマネジメントを手掛けるようになりました。

——ご活躍されていたんですね。

ただ、確かにマネジメントはとても良い経験にはなったのですが、自分自身は営業に向いているなと思いました。また、私は生命保険を担当していたのですが、お客様が亡くなられた時に不動産関係のご相談があった場合は外部に依頼しなければならないのです。ハウスメーカーに勤務していた経験から不動産に関する知識を持っていたため、自分で対応したいという思いがあり、もどかしさを感じるようになりました。それで、独立すれば自社でワンストップで手掛けられると、当社の設立に踏み切ったのです。複数の会社が入るよりもワンストップのほうが、お客様にとっても安心だろうとの思いもありました。

——ご自身の経験とノウハウをお客様のために活かそうと、独立に至られたというわけですね。ところで、こちらの旅館業というのは?

もともとキャンプが好きで、60 歳になったらキャンプ場を運営したいと思っていました。しかし、せっかく独立したのだから、規模は小さくてもまずはやってみようと思い、着手しました。仕事を通してお客様のお話を伺っている

COMPANY DATA

株式会社 SUP

東京都中央区日本橋室町 1-13-8-2F
URL : <https://www.sup2024.com>

と、山などの土地を持っではいるものの、活用方法が分からないという方が多くいらっしゃいました。そこで、「キャンプ場を使用から所有へ」というコンセプトで、土地をキャンプ場として所有していただき、当社で運営代行を手掛けるようになったのです。ご家族や会社などで使用していただくこともできますし、そうでない時は当社が管理・運営いたします。——聞いたことがないサービスですね。とても面白いと思います。

保険代理店や不動産会社はたくさんありますが、相続や終活、事業継承などにおける保険から不動産に関わる業務全般に加え、こうしたキャンプ場運営までを手掛けている会社はほかにないと思います。業容の幅が広がれば広いほど、多くのご相談に対応できますし、それだけたくさんの方のお力になれると言えるでしょう。そうして、より多くの方々の人生を支えられるような会社であり続けたいですね。また、私自身が 45 歳で未経験の世界に飛び込み、50 歳を過ぎての独立という道を選んだように、新しいことを始めるのに年齢は関係ありません。何歳になっても、夢を追い続けられるのだと、皆様に伝えたいです。

(2024 年 11 月取材)



野村 将希 (タレント)

平田社長は、とても誠実で朗らかなお人柄の方でいらっしゃいました。私の話や質問にも丁寧に答えてくださって、自然と信頼感を覚ええましたね。不動産や保険は、人の人生に大きく関わるものですから、社長のような方でしたらお客様も安心してご依頼できると思います。どうかお身体には気をつけて、これからも皆様の信頼に応え続けてください。応援しています!